



ご挨拶

本日は“*A-Winds*50”2016年冬の記念演奏会”にお越し下さり、誠に有難うございます。

聖徳太子が、飛鳥から移り繁栄した斑鳩宮。時を経てこの新しい文化の風が香り立つ“いかるがホール”で皆様方と、こうしてお逢いすることができましたことに、*A-Winds*一同、心より感謝申し上げます。

1999年10月“アンサンブル”という少人数のスタイルの延長上に位置付け“ウィンドオーケストラ”と称し、大人数編成にて遷都1300年の歴史を誇る奈良の都に発足しました。同年の冬には、初の舞台“デビュー演奏会”をこの「いかるがホール大ホール」にて開催。以後四季折々に開催する*A-Winds*の定期演奏会も、記念すべき50回目を迎えることができました。これもひとえに我々*A-Winds*の活動、そして、共に音楽をこよなく愛して下さった皆様方の御指導、御支援の賜物と心より御礼申し上げます。

本日は、世界的にご活躍される作曲家、高昌帥氏の最新作。世界初演の吹奏楽作品を、客演指揮者に高氏ご自身をお招きし、渾身のタクトとともに披露致します。

50回という節目の演奏会。私のただ一つの想いは、この世界最高の作品を*A-Winds*の為に描いて下さった高昌帥氏に心より敬意を表するとともに、これまでご支援下さったお客様、今日まで活動を一緒に続け支えてくれた団員、スタッフの皆様、そしてこの場におられるあらゆる方々への感謝と御礼と、そして何よりも“記憶、記録に残る記念演奏会”にと、心より願いを込めて。

いつまでも誰とでも良い音楽を

*A-Winds*奈良アマチュアウィンドオーケストラ団長
*A-Winds*50”2016年冬の記念演奏会実行委員長
魚谷 昌克

“*A-Winds*51”2017年春の演奏会のご案内

2017年3月19日(日) 14:00開演 いかるがホール 大ホール

◆次回のお品書き◆

- ・組曲「惑星」で有名なG.ホルスト氏作曲の不朽の名作「吹奏楽のための第一組曲」
- ・S.メリロ氏作曲の鮮やかに駆け抜ける「ゴッドスピード！」
- ・ヤン・ヴァン・デル・ロースト氏の大作「交響詩『モンタニャールの詩』」 等々

曲想鮮やかな吹奏楽の名作をご用意してお待ちしております。

“*A-Winds*51”2016年春の演奏会 実行委員長 大塚 由起

募金のお礼とご報告

*A-Winds*では演奏会開催ごとに義援金を募っており、演奏会終了後に日本赤十字社に全額納めております。

前回の演奏会 *A-Winds*49では30,352円の募金をお預かりし、「熊本義援金」受付口座に納めております。また、募金を開始した *A-Winds*38から *A-Winds*48までで総額93,504円の募金をお預かりし、「東日本大震災義援金」受付口座に納めております。

募金にご協力いただいた多くの方々に、団員一同厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。



*A-Winds*奈良アマチュアウィンドオーケストラ

Piccolo 佐藤 由加里☆	Tenor Saxophone 初岡 和樹	Tuba 杉浦 小道 堤 正治郎♪
Flute 佐藤 司☆ 魚谷 陽子 小谷 愛奈 大塚 由起☆	Baritone Saxophone 八木 理	Contra bass 佐藤 良一
Oboe 桶谷 牧子 松井 志穂☆	Horn 久野 耕三(休団) 大田 雅美 佐伯 直人 富川 陽太 西島 華奈子 九鬼 聡美♪	Percussion 久保 寛美☆ 松嶋 春香 梶本 雅子 小野 聖子 森田 晶☆ 早川 健太郎 浦野 佳美☆
E♭ Clarinet 森 望☆	Trumpet 魚谷 昌克 表 恭子 竹腰 綾香 井上 寛治 谷田 弥生 鎌田 麻友 山本 洋介	Piano 八木 真木☆
B♭ Clarinet 竹村 明恵☆ 森本 幸恵(休団) 近藤 晴美☆ 山崎 麻里子☆ 米田 彩乃☆ 山上 紗季☆	Trombone 小泉 文浩 田中 由美☆ 木下 真由美 徳田 篤彦♪	Stage Manager 河村 穂香♪
Alto Clarinet 大西 晴己☆	Euphonium 藤村 晃世 尾登 勇介(休団) 池内 砂織	Announcer 境 貴子♪
Bass Clarinet 菅野 真奈☆		団員合計 49名 ♪ = エキストラ ☆ = AW50実行委員
Bassoon 上田 良子		
Alto Saxophone 島田 博一 三宅 利幸		

*A-Winds*メンバー募集

- 募集パート
 - ・ Oboe _____ 1名
※イングリッシュホルンもお持ちの方、まずはご相談ください!!
 - ・ E♭ Clarinet _____ 1名
 - ・ B♭ Clarinet _____ 3名
 - ・ Bass Clarinet _____ 1名
 - ・ Bassoon _____ 1名
 - ・ Horn _____ 1名
 - ・ Tuba _____ 2名
 - ・ Contra Bass _____ 1名
 - ・ Stage Manager _____ 1名

- *A-Winds*の活動趣旨(ウィンドアンサンブル&オリジナル重視)に賛同頂ける方
- ご自分で楽器を準備できる方
- 18歳以上の方
- 全ての活動に賛同頂ける方
- 詳細はお問い合わせ下さい。

問い合わせ先は<e-mail>a-winds@amber.plala.or.jp



2016年12月4日(日) 13:30開場 / 14:00開演
いかるがホール 大ホール

主催 ● *A-Winds*奈良アマチュアウィンドオーケストラ
後援 ● 奈良県・斑鳩町・斑鳩町教育委員会・
大和郡山市・大和郡山市教育委員会・奈良県吹奏楽連盟



プログラム & プログラムノート

第1部

ジュビラーテ ————— 指揮：魚谷昌克 Jubilate

○作曲：ロバート・ジェイガー／ Robert E. Jager
○出版：Southern Music
○演奏時間：約5分

日本吹奏楽連盟40周年記念に委嘱され、全日本吹奏楽コンクールの課題曲として作曲されたこの曲は急—緩—急の典型的な序曲形式で構成されています。冒頭部分は有名なホルストの「木星」にインスピレーションを得て作曲されており、ホルンとサクソにより力強い主題が演奏されます。トリッキーな変化をしながら主題は様々な楽器に引き継がれ、中間部に入るとそれまでとはがらりと雰囲気を変え、とてもロマンチックで夢の中にいるようなメロディーが現れます。この緩徐部分のメロディーの美しさはジェイガーの魅力の一つです。夢から覚めた後は冒頭主題が再びティンパニ、トランペットで提示され華やかなエンディングを迎えます。

A-Winds においてはデビュー演奏会の第一曲目としてこのジュビラーテを演奏しました。記念すべき今回の演奏会では、原点に立ち返り新たなスタートを切るという意味でも、演奏会の幕開けという意味でもぴったりと言うことで今回取り上げました。

道 希望へ ————— 指揮：佐藤 司

○作曲：福島弘和／ Hirokazu Fukushima
○出版：フォスターミュージック株式会社
(無料：http://www.fostermusic.jp/user_data/scoresample/michi_kiboue.pdf)
○演奏時間：約7分

この曲は2012年、東北復興祈念特別演奏会のために作曲されました。作曲者である福島氏は「道は始めからあるのではなく、誰かが歩んで通った部分が道になります。これから、我々が歩んでゆく道、原発、対諸外国、など険しい道かもしれませんが、歩んできた部分が明日につながる希望をもって進める様に祈りを込めて演奏してください。」というメッセージをこの曲に込められたそうです。

どこか懐かしいフレーズが不安を呼び起こすような和音とともに始まるこの曲は、その後の困難を静かに暗示しているようで演奏していて胸が詰まります。静かな不安に包まれるメロディーの中、それでも歩みを止めずに進んでいくと、やがて小さな光が見つかります。次第にその光は力強さと暖かさを増し、朝日のような和音で曲のエンディングを飾ります。

ダイヤモンド・ヴァリエーションズ ————— 指揮：富川陽太 Daiamond Variations

○作曲：ロバート・ジェイガー／ Robert E. Jager
○出版：Alfred
○演奏時間：約15分

- 第1曲 主題
- 第2曲 第1変奏 ユーモラス
- 第3曲 第2変奏 ドラマティック
- 第4曲 第3変奏 スリリング
- 第5曲 第4変奏 ロマンティック
- 第6曲 第5変奏 圧倒的な壮麗さ

イリノイ大学バンドの創設75周年を記念して作曲されたこの曲は同大学のフットボールチームの応援歌の旋律をテーマとした5つの変奏曲から構成されています。ですが、冒頭のオーボエソロ、金管群のファンファーレでテーマが演奏された後は、最後のコーダにたどり着くまで、はっきりとわかる形ではテーマが出てこないのが、変奏曲と言うよりは5つの楽章から構成されている曲と言う方がしっくりくるかもしれません。それだけ、ジェイガーのオリジナリティが存分に発揮されている曲だと言えるでしょう。1曲目で取り上げたジュビラーテでも特徴的だったリズムカルなフレーズ、緩徐部分のメロディーの美しさはこれでもかとばかりに詰め込まれている大変楽しい曲です。ジェイガーは1964年アメリカの優れた吹奏楽曲の作曲者に与えられる「オストワールド賞」を受賞しています。それだけ、この曲の完成度は高く、聴きごたえ、吹きごたえたっぷりです。お楽しみいただけましたら幸いです。

第2部 ————— 客演指揮：高 昌帥 シンフォニック・オーヴァチュア(交響的序曲) Symphonic Overture Op.80 for Symphonic Band

○作曲：ジェイムズ・バーンズ／ James Barnes
○出版：Southern Music Company
○演奏時間：約8分

この作品はアメリカ空軍ワシントンバンドの創立50周年を記念して作曲されました。この曲も急—緩—急の3部構成になっています。

この曲を作曲するにあたって、作曲者は非常に悩み、一度作り上げたものをすべて壊してから作り直したそうです。底抜けに明るく華やかなファンファーレで幕を開けると、主題を提示する美しいオーボエソロが現れます。この主題のメロディーは一度聴いたら忘れられない美しい旋律です。そこに徐々に楽器が増え、スピードを落とすことなく中間部ブリッジへ突入します。中間部はイングリッシュホルン、アルトサクソ、ユーフォニアムがそれぞれ抒情的な旋律を奏で、荘厳ともいえる合奏で盛り上がりを見せます。再びイングリッシュホルン、アルトサクソ、ユーフォニアムのソロで中間部を締めくくると、今度は主題がリズムカルな変化をしながら再び現れます。そして、駆け抜けるようにエンディングへ。各所に高難易度のパッセージがちりばめられていて、非常に難しいと同時に豪華な曲です。

A-Winds 50 記念委嘱作品

ウィンドオーケストラのための「チルチェ」 Chirche for Wind Orchestra

○作曲：高 昌帥／ Chang Su KOH
○出版：未出版
○演奏時間：約8分

朝鮮民謡では基本リズムのことをチャンダンと呼び、「Chirche (チルチェ)」はそのチャンダンの中の一つです。「チルチェ」の「チル」とは数字の「7」を意味し、拍の頭を表すことが多いジン(小さな銅鑼のような打楽器)が7回叩かれることから名づけられたと言われていたそうです。数多く存在するチャンダンの中でも、2拍子と3拍子が複雑に絡み合う基本リズムを持つ「チルチェ」は、非常に難しいチャンダンのひとつです。そんなチルチェ・チャンダンをもとに作曲されたのが今回、高昌帥氏の作曲・指揮にて初お披露目となります、*A-Winds* 50 記念委嘱作品「Chirche for Wind Orchestra」です。

高氏曰く「*A-Winds* の団員さんの顔を思い浮かべながら作曲した」と言っていたとおり、曲の編成、構成が *A-Winds* にぴったりフィットするように作られており、どの楽器も活躍の見せ場があり、それでいて、エキサイティングな曲に仕上がっています。とても光栄で、幸運なこの曲を精一杯演奏いたします。



高昌帥 プロフィール



大阪音楽大学作曲科卒業後、スイス・バーゼル音楽アカデミー留学。これまでに作曲を田中邦彦、R.ケルターボーンの各氏に、指揮をJ.マイヤー氏にそれぞれ師事。
・第5回吹田音楽コンクール作曲部門一位無しの二位。
・第13回名古屋文化振興賞作曲部門佳作

- ・第1回コダーイ記念国際作曲コンクール佳作
- ・第12回朝日作曲賞受賞(2002年吹奏楽コンクール課題曲「ラメント」)
- ・第1回COMINES-WARNETON国際作曲コンクール「イヴ・ルルー賞」受賞
- ・平成20年度JBA「下谷奨励賞」受賞
- ・第19回吹奏楽アカデミー賞・編曲部門受賞
- ・平成24年度JBA「下谷奨励賞」受賞

現在、大阪音楽大学准教授。
日本現代音楽協会、関西現代音楽交流協会、21世紀の吹奏楽「饗宴」各会員。プロ・アマ問わず多数の委嘱を受け、管弦楽・吹奏楽・室内楽など様々な編成の作品を作曲する傍ら、現代音楽の指揮、アマチュアオーケストラや市民バンドの指導にも携わる。
代表作に、音楽劇「河内湖」(初演：フェスティバルホール)、吹奏楽のための協奏曲(初演：フェスティバルホール)、ソプラノ独唱とバリトン朗読、オーケストラのための「あなたに」(初演：ザ・シンフォニーホール)、ソーパーカッションと吹奏楽のための協奏曲「雷神」(初演：カーネギーホール)等。